

令和4年度

関係人口創出・拡大のための対流促進事業
(中間支援組織の提案型モデル事業)

事業の実施結果
(概要)

団体名	特定非営利活動法人 自然環境復元協会
事業名	地域の人との交流を通じた環境系学生のための学びの場の創出事業

- 自然や地域に関心の高い学生に向けたキャリア教育を通して、各地域のプレイヤーと意欲ある学生のつながりを育むことを支援した。
- 鹿児島県屋久島町で実施されてきた“環境系学生未来塾”をモデルとし、自立・自走可能な事業モデルを構築し、未来塾の効果の可視化と長野県泰阜村・大分県中津市耶馬溪町での試行を行った。

主な活動内容

1. 環境系学生未来塾のモデル化

- 未来塾の過去参加者や関係者にアンケート調査やヒアリング調査を行い、参加者・関係者・地域への効果を可視化した。
- 特に、地域協力者へのインタビューは動画としてまとめた。
- 広報活動や地域協力者への説明のため、未来塾のエッセンスや参加者の声などをまとめた広報冊子を作製した。

2. 長野県伊那郡泰阜村・大分県中津市耶馬溪町での試行

- 2022年9月に「環境系学生未来塾 in 泰阜村」（4日間）、2023年2月に「環境系学生未来塾 in 耶馬溪」（4日間）を開催した。
- 泰阜村では「NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター 緒方公美氏」、耶馬溪では「株式会社森と人と 松木太氏」を地域パートナーとして、地域に根差したイベントになるように心掛けた。



▶ 地域の大人との対話（泰阜村）



▶ 地域の暮らし体験（泰阜村）

主な成果

1. 参加者や地域の声

- 参加学生からは、「自分の根本と向き合っていこうと思った」「地に足のついた暮らしの重要性を感じた」という声があり、地域で暮らす大人の在り方に影響を受けているようだった。
- 地域住民からは、「20代前後の若者の感覚に触れられる機会が少ないので、貴重な機会だった」「参加する学生が真剣な目線でわたしの人生のはなしを聴いてくれて、自己肯定感が上がった」という声があった。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 過去参加者へのアンケート調査の結果「終了後開催地域に帰ってきたことがある」と答えた参加者が64%となった。そのうちの80%以上が2回以上帰ってきていると回答した。
- 地域パートナーの理念や普段の関係性が、それぞれの地域の色として濃く出ることが分かった。地域に根差して暮らす人を通して、その地域性や特色が見えてきた。



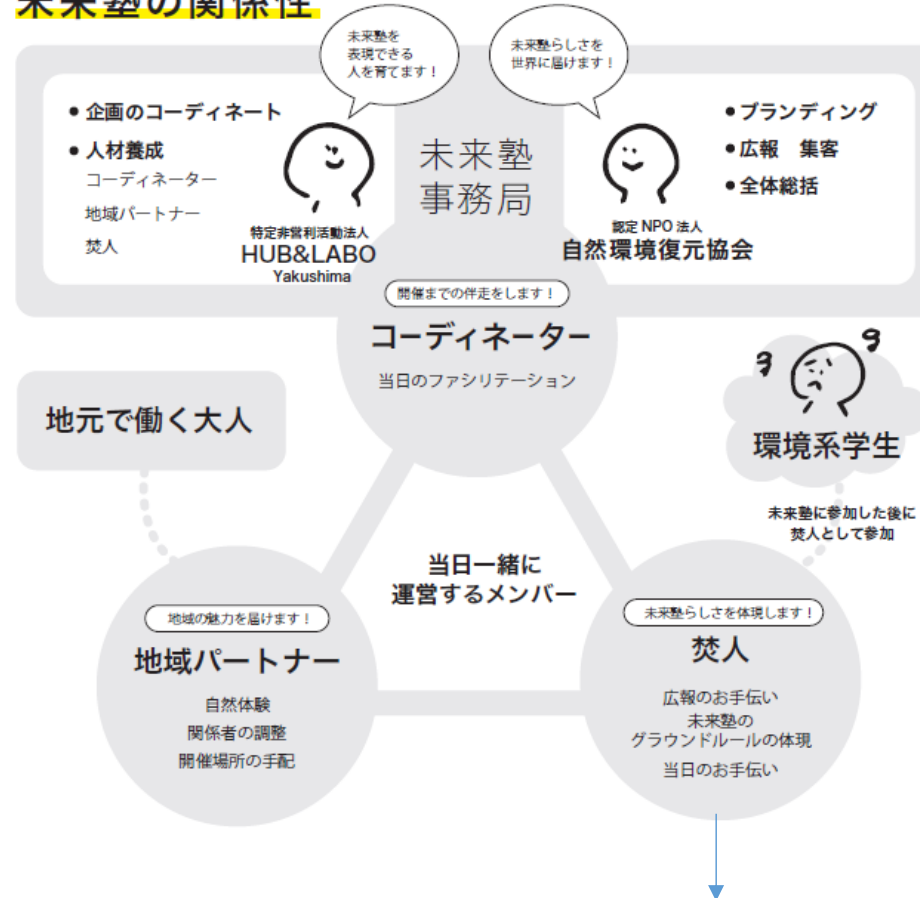
▶ 価値観を整理する対話（耶馬溪）



▶ 里山整備（耶馬溪）

事業実施体制・関係機関

未来塾の関係性



団体名	役割
NPO法人 自然環境復元協会	未来塾のブランディング、広報・集客、全体統括
NPO法人 HUB&LABO Yakushima	企画のコーディネート、関係者の人材養成
NPO法人 グリーンウッド 自然体験教育センター	泰阜村での地域パートナー
株式会社森と人と	耶馬溪での地域パートナー
島結	未来塾の動画作成
藤本瞳	未来塾の冊子デザイン

- ・ 焚人とは過去参加学生の中から募った学生スタッフのことである。未来塾の経験をもとに新規参加者に寄り添ったり、他地域に展開していく際に未来塾の質を担保したりするために、事前にオンラインでの講座を受け参加してもらった。
- ・ また、地域パートナーも同じくオンライン講座を受けるため、現地に訪れる前に学生スタッフと地域パートナーの関係性が深められるような内容になっている。

次年度以降の事業展開

(未来塾の横展開の発展)

- 今年度開催した、長野県泰阜村・大分県中津市耶馬溪町での継続開催と、地域らしさをより醸成するための地域パートナー育成を行う。
- 新規地域として、山梨県北杜市清里・北海道羅臼町知床での開催を模索する。

(未来塾の広報・ブランディング)

- 関連大学に未来塾広報冊子を置いてもらえるように営業を行う。
- SNS、HP等の全体のデザインの統一、整理を行う。

(収益性の高い事業へのスケールアップ)

- 今まで蓄積してきたノウハウを整理し、オンライン講座として人材育成の基盤を整える。
- 今年度整理したエッセンスや構築した実施体制をベースに社会人向けのイベントの模索をする。

(今後のスケジュール等)

<2023夏>

環境系学生未来塾 in 屋久島 8月28日～9月1日

環境系学生未来塾 in 泰阜村 9月3日～6日

環境系学生未来塾 in 知床 9月9日～13日

<2024春>

環境系学生未来塾 in 清里 2月27日～3月1日

環境系学生未来塾 in 屋久島 3月6日～10日

環境系学生未来塾 in 耶馬溪 3月末

<社会人向けモニター>

環境系社会人未来塾（仮）in 屋久島

10月7日～9日

次年度以降の収支計画

(千円)	R5	R6	R7
収入	2,520	3,692	4,528
未来塾参加費	2,520	3,192	3,528
オンライン講座受講料	0	500	1,000
支出	1,920	2,300	2,680
開催経費（食費・宿泊費）	1,200	1,400	1,600
地域人材外注費	720	900	1,080

自立・自走化にあたっての課題

- 地域の受入れ団体の人材が人数・質ともに十分にある場合は、参加学生と受け入れスタッフとの深い関係性が構築されるが、人数が少ないと受入れ対応（食事準備等）に追われて、関わる時間が少なくなってしまう。地域の受入れスタッフが参加学生との関係性構築に十分に時間をさけるようなしくみを考える必要がある。
- 例えば、食事は地域内で外注するなどして、対話の時間を増やすこともひとつの方法である。しかし、学生向け価格の中で、経費削減と人材確保の調整が必須となる。